

医療費「10割負担」776件に拡大

マイナンバーカードを健康保険証としても使う

「マイナ保険証」のトラブルで、患者が医療費の全額を窓口で請求された「10割負担」の事例が4月以降、少なくとも776件あったことがわかった。医師や歯科医師らでつくる全国保険医団体連合会が21日、6月19日時点までの調査結果を公表。前回集計（8日時）の5535件から倍の

に上積みされた。▼3面
■水山の一角

同連合会が41都道府県の医療機関にアンケートし、マイナ保険証のシステムを導入済みの8437機関が回答した。

このうち5493機関（65・1%）が、マイナ保険証を使った際、「無効」と表示されるなど、何らかのトラブルを経験していた。他人の医療情報がひもついていた誤登

録が確認されたのは、31都府県で114件となった。厚生労働省は本来の窓口負担で支払いができるよう、6月中に対応策を示す考えだが、問題の収束は見通せない。

同省が21日公表したマイナ保険証の利用者1千人を対象とした調査結果によると、利用して感じたメリットを「特になし」とした回答が56・5%を占めた。（村井肇人）

10割負担氷山の一角

保険証登録遅れやカード不具合

マイナ保険証を使った患者が医療機関の窓口で医療費の「10割負担」を求められたケースが4月以降、全国で776件確認された。ただ、全国保険医団体連合会の調査に回答した医療機関は約8400にとどまる。全国には約16・8万の病院や診療所などがあり、判明したトラブルは氷山の一角とみられる。

▼1面参照

同連合会が調査を公表し始めた5月下旬は、全額負担を求められたのは122件だった。その後件数は増え続け、問題は深刻さを増している。患者が10割負担を求められるのは、窓口で保険加入の資格情報を確認できないためだ。厚生労働省は発行済みのマイナ保険証では原因が主に二つ

あると説明している。まず、転職などをした際に、システムへのデータ登録が終わっていないケース。マイナンバーのひもつけ作業に時間がかかり、保険証は発行されているのに「無効」などと表示されてしまう。

もう一つは、機密不良などでオンラインによる資格確認ができないケース。カードのICチップ

の破損やカードリーダーの故障のほか、通信障害などもある。いずれも従来の保険証では発生しなかったトラブルだ。

10割負担の問題多発を受け、加藤勝徳厚生労働相は20日の会見で、トラブルが起きたとしても、本来の3割などの自己負担で済む具体的な対応策を6月中に示すとした。

これまでの「医療機関任せ」だった対応を改め、マイナカードで年齢を確認した上で、原則1〜3割負担の支払いで済むようにする考え。医療機関側にも「経済的な負担が生じないようにする」（加藤氏）とい

う。ただ、収入によって自己負担の割合が変わる後期高齢者は、マイナカードの券面だけではどれだけの負担が判断できないといった課題も残る。

さらに別人の医療情報が入りこめられた登録の問題も点検のさなか。これまで7372件が判明したが、件数はさらに増える可能性がある。

(村井 幸人)